

「新しい東北」官民連携推進協議会

令和3年度 福島県意見交換会（第2回）議事概要

令和3年11月15日

「新しい東北」官民連携推進協議会事務局

【日時】令和3年11月15日（月）10:00～12:00

【場所】復興庁福島復興局 / オンライン

【出席者】（敬称略）

＜本件テーマに関与頂ける団体＞

一般社団法人あすびと福島

＜副代表団体＞（所属の五十音順）

株式会社東邦銀行、福島県、国立大学法人福島大学、一般社団法人ふくしま連携復興センター

＜オブザーバ＞

福島県観光物産交流協会

＜復興庁＞

復興庁 復興知見班、復興庁 福島復興局

＜事務局＞

PwC コンサルティング合同会社

【議事概要】

1 開会

1.1 復興庁の挨拶

- 意見交換会は岩手・宮城・福島と各地域の課題などに合わせて進めているが、福島らしい議論ができるようお願い申し上げます。

2 各団体の活動紹介

2.1 復興庁福島復興局

- ハローワーク相双における活動を紹介します。相双地域での人手不足が課題となっていることから、企業の採用担当者と高校の進路指導担当教諭等との情報交換会を令和3年11月25日に開催し、企業と高校等の担当者が求める人材や企業の特徴について情報交換を行う。企業の参加条件は2つあり、1つ目は相双地方のユースエール認定企業のうち、参加を希望する企業、2つ目は相双地方における企業のうち、「令和元年～同3年3月新規高等学校卒業者の採用を予定し公共職業安定所に高卒求人を出したが、生徒からの応募が1度もなかった企業」又は「こ

れまで公共職業安定所に高卒求人を出していなかったが、令和4年3月以降に継続して新規高等学校卒業者の採用を予定している企業」のいずれかを満たす企業となっている。

3 今年度の取組説明

3.1 事務局より、事務局提出資料をもとに、主に以下の点を説明した。

- ・ 第1回意見交換会の振り返り
- ・ 本日の論点
- ・ 【論点1】目標達成のための取組について
- ・ 【論点2】実践の場・第3回意見交換会について

4 意見交換

4.1 取材先候補企業の選定

「ものづくり福島」等の産業の特徴を捉えた企業を中心に、学生の認知度は必ずしも高くない企業を選定する意見が挙げられた。また、学生主体の取組としたいことから、学生から取材したい企業が出てくれば、取材先候補企業に追加し、取材を進めてもらいたいといった意見が挙げられた。

(主なご意見)

- ・ 「ものづくり福島」の目線で取材先企業を選定したい。福島イノベーション・コースト構想に関わる福島県外から来ている企業や、ベンチャー企業などにも取材できると良いと考える。選定基準は「学生の認知度は必ずしも高くないが、事業内容や地域への貢献活動、および人(経営者・社員)の魅力がある企業・団体」とすると良いのではないかと。学生からの視点での選定企業の魅力を抽出できると、次年度以降の企業選定の参考になると考える。
- ・ 学生たちが企業を見る視点については、本取組を繰り返すことによって、自分事化していく過程で付加されていくと考えている。複数回の取材による試行錯誤を経てインキュベーターされる機会と捉えている。取材へはあすびと福島のスタッフも同行し、学生が引き出しきれなかった企業の魅力を発見するフォローをすることで、学生にどういった視点が足りなかったかを学ぶオン・ザ・ジョブ・トレーニングのような機会としたい。
- ・ あすびと福島の活動に参画する学生は意識が高く志も高い方が集まっていると考えている。そのため学生からも取材したい企業が出てくれば、今回の取材先候補企業以外へも取材をしても良いと考える、学生にとって更に主体的な取組となるのではないかと。

4.2 学生の参画目的

学生の「福島をもっと知りたい、向き合いたい」ということがモチベーションであり、結果として福島の若者が地域の産業を支え活性化するという社会的意義に繋がるといった意見が挙げられた。

(主なご意見)

- ・ 学生としては、「最終的に福島に就職する学生を増やす」といった目的意識では「ワクワク」というような感情は起きない。学生も、「最終的に福島に就職する学生が増えてほしい」と考えているが、それが最初の参画目的とはならない。社会的意義から参画するというよりは、身近な範囲での「やりたい」から始まり、結果として社会的意義に繋がる。企業では、ビジョンがあり目的があり現場が動くというプロセスが多いが、学生の場合は「自分のやりたいこと」が先にあり動くというプロセスである。学生のモチベーションは、「福島をもっと知りたい、福島に向き合いたい」ということである。地元就職の促進を目的にしたものではないが、最終的に福島に就職する学生が増えることにつながると考えている。本取組に不安がある学生もいるが、そこはスタッフがサポートしつつ、3、4回行くと要領が掴めるのではないかと考えている。
- ・ 地域の学生に地域へ就職してもらうことを押し付けるような形にならないようにしていきたい。取組を通じて結果的に地元就職したり、地域に就職せずとも地域に貢献してくれたりすると良いと考える。そのためにも活動が学生にとってワクワクする内容でなければならぬと考えるが、そこで社是や企業理念などがあると良いのではないか。社是や企業理念を明示している企業は魅力的だと考える。社是や企業理念を明示している企業というのを選定基準に追加できないか。
- ・ 社是や企業理念は重要であるが、選定基準に加えることで絞り込みがかかってしまうのは避けたいので、取材先候補企業リストに社是・企業理念の列を追記し、参加団体へ共有することとしたい。

4.3 取材の推進体制

将来的に学生による学生のための活動となるよう、費用面や対外的な発信となる note (SNS) による発信部分、取組に関する相談など大人による支援を行い、活動を積み上げ、口コミで後継メンバーにつながっていくような活動になると望ましいといった意見が挙げられた。

(主なご意見)

- ・ 学生への交通費や宿泊費の支給について、次年度以降も福島の次世代育成のため継続していく観点から、必要な経費として自前で確保していく。
- ・ 協議会として継続的に支援できる部分を洗い出し、次年度にも支援できると良い。
- ・ 将来的には、学生自身で独自に取材ができる体制になることが望ましい。また、学生が口コミで本活動を知り繋がっていくことができると良い。
- ・ 次年度以降については、いつでも副代表団体に相談などができる関係性を持つと良いと考えている。また、復興庁 HP とあすびと福島 HP とで相互リンクできると、副代表団体も取組を継続的に見ることができるとのではないか。

- ・ 次年度以降、取材候補に関する相談を受けることは可能である。必要に応じて都度ご相談頂きたい。
- ・ SNS を用いた発信は、炎上などのリスクもあるため、学生に運営を任せるのではなく、あすびと福島にて責任をもって運営する note 上での発信を実施する考えである。

4.4 実践の場・第3回意見交換会について

実践の場（読む会）は発信した記事を基にブラッシュアップする場とし、対外的な発信となる第3回意見交換会については継続検討としたいといった意見が挙げられた。

（主なご意見）

- ・ 呼び込むターゲットについては、地域就職が増えると喜んで頂ける企業関係者などを想定しているが、現時点では検討段階に留まっている。
- ・ 呼び込むターゲットは定義する必要がある。
- ・ 実践の場（読む会）は発信した記事を読む場としたい。また、第3回意見交換会に呼び込む対象として、現段階ではメディアなどは考えておらず、口コミにて活動を波及させていきたい。

5 閉会

5.1 本日の決定事項

- ・ 選定基準は「学生にとっての認知度は必ずしも高くないが、事業内容や地域への貢献活動、および人（経営者・社員）の魅力がある企業・団体」とする。
- ・ 候補企業に対しあすびと福島にてコンタクトを実施し、取材の調整を進める。調整に先立って各企業にお声がけする理由を事務局よりあすびと福島に伝達する。
- ・ 第3回意見交換会の論点は今後調整する。

5.2 その他

- ・ 第1回意見交換会の活動紹介資料である「会津の企業魅力発見ノート」について、企業の選定方法と取組の効果をご教示頂きたい。
- ・ 企業の選定方法は、県・協力企業・教育事務所などの間で協議し決定したと聞いているが、具体的な選定基準については把握できてない。取組の効果についてはデータを取ることができなかった。

以上